

## 日本医学会分科会活動報告

一般社団法人日本病態栄養学会  
理事長 清野 裕

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

本法人は、病態に応じた栄養療法・栄養管理・栄養評価を行なう者及びこれらを学ぶ者に対する教育、指導並びに研究発表、情報の発信と会員相互及び国内外の関連学会との連携協力を行うことにより、病態栄養学の発展を促し、もってわが国の学術向上に寄与すると共に国民の栄養知識の普及啓発と健康増進に資する事業を行っている。

- ① 病態栄養に関する調査及び研究
- ② 病態栄養に関する学術講演会、討論会及び研究会の開催
- ③ 栄養療法・栄養管理・栄養評価に関する書籍の刊行
- ④ 病態栄養に関する学会機関誌、研究報告、研究資料及び図書の刊行
- ⑤ 病態栄養に係る医療人材の認定

病態栄養専門医及び病態栄養専門管理栄養士を認定している。また、がん病態栄養専門管理栄養士・腎臓病病態栄養専門管理栄養士・糖尿病病態栄養専門管理栄養士については、公益社団法人日本栄養士会との共同で実施している。

⑥ 国内関連団体及び国際的関連団体事業との交流と連携

・日本栄養療法協議会の設立

2014年、日本病態栄養学会の提案により11学会と日本栄養士会（職能団体）が集結し各学会から発表されている栄養療法に関するガイドラインの整合性を目指し、また効果的な栄養療法を確立しその標準化により医療の質を向上させ患者に最適な治療の実現すべく「日本栄養療法協議会」を設立し活動している。20学会（うち、14学会が日本医学会に加盟）と1職能団体が参画し、3つのワーキンググループ（サルコペニア分野、がん分野、腎臓関連分野）を組織している。

- ・日本栄養学学術連合
- ・日本糖尿病対策推進会議
- ・内科系学会社会保険連合

- ⑦ 教育・生涯教育活動の企画・開催・運営
- ⑧ 病態栄養に関する広報活動

b. 当該領域における国際的な役割

超高齢社会である日本は、フレイルを伴う高齢者の増加、いくつもの疾患を併存する高齢者の増加などに伴い、栄養療法の刷新が求められている。本学会では、このような高齢者に用いる栄養療法の開発につながる研究を進めており、超高齢社会に向かう各国の先鞭をつけている。

c. 活動からもたらされる社会的な意義

フレイルを伴う高齢者の増加、あるいは、いくつもの疾患を併存する高齢者の増加などを伴う超高齢社会である日本において、健康長寿の延伸につながる栄養療法を開発するとともに、これを実践できる医療者の育成を担っている。

d. 学会運営上留意している点

本学会は医学研究者や医師・管理栄養士・看護師など多彩な職種の会員が存在する。学会の運営においては、このような多彩な背景を持つ会員のニーズに応えるべく、多様性を重視した運営に心掛けている。また、糖尿病・腎疾患・肝疾患・動脈硬化性疾患・肥満・癌など多様な疾患の栄養療法の開発を目指しており、多くの学会との連携を重要視している。

II. 日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載してください。

日本病態栄養学会の提案により 11 学会と日本栄養士会（職能団体）が集結し各学会から発表されている栄養療法に関するガイドラインの整合性を目指し、また効果的な栄養療法を確立しその標準化により医療の質を向上させ患者に最適な治療の実現すべく「日本栄養療法協議会」を設立し、日本医学会には 2015 年に承認され、現在では 20 学会（うち、14 学会が日本医学会に加盟）と 1 職能団体が参画し、3 つのワーキンググループ（サルコペニア分野、がん分野、腎臓関連分野）を組織することで、目的の達成を目指している。一部の研究は、日本病態栄養協議会が主体となり、日本医療研究開発機構の支援を受け、遂行している。